第２回　電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会　議事要旨

平成２４年１２月７日（金）
１３：３０～１５：３０
伊勢市役所　４－５会議室

＜合意事項（まとめ）＞

○協議会の参画者が、行動するための計画をつくる。また、協議会設立の経緯と、位置づけについても行動計画に記載する。

○協議会の取組は、県事業が終了後も継続して取組を進めていく（2020 年を目標年度とする伊勢市地球温暖化防止実行計画に、本取組は位置づけられている）。

○各ワーキングからの報告事項と了解された事項は以下のとおり。

ア）観光プラン WG で、中長期、短期で取組むプランを検討する。

イ）おもてなし WG で、外宮参道で EV 等を活用している姿を見せる取組を、観光客を迎える伊勢の市民が主役となっている既存の取組と連携して進める。また、ユニバーサルの視点も含めて検討する。

ウ）災害 WG は、これまで検討してきた内容を踏まえ、災害時に必要な取組をまとめる。

エ）充電 WG は、地元の方々のニーズを踏まえ、伊勢市で何に取り組むのかを検討する。

オ）デザイン WG では、「おかげさま Action！～住むひとも来たひとも～」の使い方等を整理し、具体的な取組内容について考え、どのようにデザインしていくのかを検討する。

○事務局は、第３回協議会にて行動計画案を提案する。第４回のワーキングでは行動計画案作成に向けた検討を行うこととする。

１．開会

（三重県　地球温暖化対策課長）

・第２回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を開催します。

朴会長に会の進行をお願いします。

（朴会長　挨拶）

・皆様、こんにちは。早くも第２回の協議会です。第１回協議会では、電気自動車等を活用することで、伊勢市をどういうふうに世界に誇れる環境先進都市、観光先進都市にしていくか、環境に配慮したモデル都市としていくかを考える中で、「低炭素社会」がキーワードとなりました。

・「低炭素社会」とは、単純に二酸化炭素を減らせばよいということではありません。どの地域でも使えるモデルをつくるために、産官学民が一丸となり、壮大な社会の創造を実施していきましょう。

・既に５つのＷＧが結成され、熱心に議論されています。今日は各ＷＧでどのような議論を行っているかを報告いただき、本協議会でオーソライズしましょう。今後の方向性を考えていく意味で、今回は大変重要な会議です。

・　各ＷＧからの報告は約１５分程度を想定しています。その後、忌憚のない意見をいただくようお願いします。

〔新規協議会参画者、前回協議会欠席者による自己紹介〕

（豊田通商株式会社　浅井氏）

・豊田通商の浅井です。名古屋からの参加となる。我々は商社で、次世代車の事業を推進している部署に所属しています。今回は中部経済産業局からご紹介いただいた。ア）観光ＷＧに参加しており、グループ会社の超小型コムスのシェアリングシステムを紹介させていただきます。我々は豊田市の低炭素実証実験も事務局として参加しているので、案件紹介など、ご協力できると思っています。よろしくお願い致します。

（日産自動車株式会社　西片氏）

・日産自動車の西片です。横浜本社から参加しています。第１回の協議会には参加できませんでした。環境や防災など、いろんなシーンで役立つ電気自動車に注目いただいており、メーカーとして嬉しく思っています。日産自動車本社、東海日産、三重日産、全力でお手伝いをさせていただきたいので、どうぞよろしくお願い致します。

・東海日産からもご挨拶させていただきます。

（神林氏）

・東海日産の神林と申します。東海日産は三重県、愛知県、岐阜県、静岡県の販売会社 10 社を統括しています。日夜、ＥＶの拡販、急速充電器の普及に努めています。何か役に立てればと思っていますので、どうかよろしくお願い致します。

（藤原氏）

・前回ご挨拶させていただいた東海日産自動車の藤原です。どうぞよろしくお願い致します。

（長岡氏）

・三重日産自動車の長岡です。どうぞよろしくお願い致します。

（日東工業株式会社豊福氏）

・日東工業の豊福です。愛知県長久手からの参加です。当社は、高圧受電設備、分電盤などのメーカーでありますが、ここ４年ほど豊田自動織機と共同でプラグインハイブリッド、電気自動車用の普通充電スタンドを製造販売しています。充電ＷＧの中で我々が長く培ってきたノウハウをお役立ていただければと思います。よろしくお願い致します。

（二見町旅館組合　濱千代氏）

・二見町旅館組合長の濱千代です。今後訪れる EV 車社会に旅館としてどう関わっていけばよいか勉強のために参加させていただいています。よろしくお願い致します。

（菊川副会長）

・伊勢商工会議所の菊川です。協議会の副会長を任ぜられたにも関わらず、前回は参加できず申し訳ありませんでした。全国から知見のある方、また地元の商・工・観光に携る皆様から多角的なご意見をいただけることを喜ばしく思っています。伊勢商工会議所の会頭がいつも言っていることがあります。商工は皆を幸せにする手段であって、目的は笑って幸せな社会の実現であると。ＥＶ等を用いた低炭素型社会の目的をみんなで考えていきたいと思っています。ＷＧでは多面的な意見をいただいており、感謝申し上げます。それぞれの面積を大きくすることで目的の実現に近づけると思っています。どうぞよろしくお願い致します。

２．各リーダーによるＷＧの報告

（１）ウ）災害時に観光者が安心できる環境づくり検討ＷＧ

（　ウ）災害 GW 代表　名古屋大学　柴原尚希助教による資料説明）

（２）イ）駅周辺商店街によるおもてなしの検討ＷＧ

（　イ）おもてなし GW 代表代理　名古屋大学　柴原尚希助教による資料説明）

（３）オ）観光地伊勢に調和したデザインづくり検討ＷＧ

（　オ）デザインＷＧ代表　皇學館大學学生支援部長堀井史仁氏による資料説明）

（４）エ）ＥＶ等のモビリティーを上手く使える環境づくりＷＧ

（　エ）充電ＷＧ代表　伊勢商工会議所環境委員会副委員長中村貴司氏による資料説明）

（５）ア）ＥＶ観光プランの作成検討ＷＧ

（　ア）観光ＷＧ代表　名古屋大学加藤博和准教授による資料説明）

３．本協議会における議決事項（共有・承認事項）

（朴会長）

・オ）デザインＷＧの報告によると、「神都」「心都」と、いろんな「しんと」が出てきた。当初、デザインはＥＶ等や低炭素に関するものに限られたものかと思っていたが、これまでのＷＧで、伊勢らしさや伊勢を思わせるキャッチーなデザインを考えてはという話がされている。補足や共有すべき点があれば、是非お話を伺いたい。それぞれのＷＧの共通項をひきあげて、それぞれのＷＧの議論が深まるような、全体的なイメージ、大きなメインストリームや柱といったものが出来るとありがたい。

（オ）WG 代表　堀井氏）

・我々のＷＧでは、エコや環境、ＥＶ等を中心に考えるより、伊勢で取り組むことを前面に出

してデザインを公募する「エコ」、「環境」という言葉を含めたデザインにするのか、それとも伊勢で取り組む内容を網羅したものにするかに関しては、後者で行う方針で議論を進めている。

・他のWGの動きが分からない中で、デザインすることとの関連が気になっていた。他WGの報告を聞くことで、デザインの使い方など、ある程度方向性が定まるだろう。その辺りについても、WGで検討したい。

（朴会長）

・資料の４ページに示されている概念図は、WGメンバーの個人的視点なのか？

（堀井氏）

・二つの提案があり、そのうちの一つの概念図を掲載した。

（朴会長）

・ア）観光WG代表の加藤さんの話にもあったが、式年遷宮が目前にせまる中、短期的に考えるべきものもあれば、もっと長いスパンで考えるべきものもあるだろう。協議会では、限られた時間の中で、５つのWGをある程度収斂してメインストリームをつくる必要がある。

・それぞれのWGで議論されていることは、ばらばらではなく、それぞれがつながっている。それを踏まえて今後我々が進む方向性を一緒に考えて欲しい。そうすることで、各WGの課題とゴールが見えてくるだろう。

（西片氏）

・意見というよりも質問である。協議会の名称から考えて、協議会、それぞれのWGの全体のビジョン、目標は伊勢市で低炭素社会を実現するという理解でよいか。それはこの協議会の中で共有されているか。

（事務局）

・当協議会の目的は、電気自動車等を活用してまちづくりをしていくということで、モデル地域として伊勢市を選定させていただいた。伊勢市をモデル地域としたまちづくりという趣旨とご理解いただきたい。（※規約 第２条参照）

（西片氏）

・すべてのWGがそもそも何をやっているか立ち返った時に、「低炭素社会の実現」を思い出しながら進めるべきである。伊勢市にはＥＶで安全に行けて安全に充電できるとか、目的がこれだったと思えるようなものがないと、WGがまとまらないのではないか。協議会全体のかみくだいた目標があれば確認させていただきたいと思い質問した。

（加藤氏）

・本来は、ア）観光WGがメインであると理解している。つまり、伊勢は生活交通というより観光交通が卓越していてそれによって渋滞が起こるということが背景にある。だから、当面は、ＥＶ等を活用した観光パッケージプランを提案することが重要と考える。

・そのために伊勢市駅（外宮）周辺で何をするかがイ）おもてなしWGで、ウ）災害WGは災害時にどう使うか、オ）デザインWGはデザインによるアピールで、エ）充電WGは充電がどう支えるかというのが各WGの位置づけである。

・観光で伊勢市に来てもらえるということは、観光を通じてエコモビリティを知ってもらう良い機会になる。伊勢は伝統を守っているにも関わらずエコで最新というのは、私が「自然の摂理に寄り添った神道文化をエコな交通手段で体感できる地域をプロデュース」といったことに通ずる。昔からやっていることを現代にするとこうで、それを体感できるのが伊勢であることを他地域にも波及するよう情報発信できるのは大きなポイントである。

（西片氏）

・各WGが議論して立ち戻るところがあるとよいので、協議会で何かしらあるべき姿を言葉で示した方がいいと思う。

（朴会長）

・三重県のプロジェクトとして、移動手段に着目した低炭素社会の実現のモデル都市として伊勢市が選定されるために、伊勢市が取組を推進する意志があったことから協議会が発足した。しかし、このプロジェクトは地元の方々の協力なしでは絶対に実現できないことである。それもあって５つのWGに分かれて検討を進めている。

・伊勢市の中で、どの程度、低炭素社会実現や当協議会に関することを話しているのか。市の中できちんと対応しなければ、実現は難しい。市と県の意見、主旨をお伺いしたいが、環境部局と観光部局両者からの意見をお伺いしたい。

（事務局　伊勢市環境課　坂本氏）

・現在、伊勢市では、地球温暖化防止実行計画を策定中で 12 月に策定予定。その実行計画の中で低炭素社会を目指しているが、「歩くまち」「クリーン自動車のまち」を掲げている。そして、その重要な取組の一つとして、「ＥＶ等を活用した低炭素社会の構築」も掲げている。

・伊勢にはたくさんの方が観光に訪れることから、観光客に対し伊勢市の環境に対する取組を発信したい。

・伊勢市は、当協議会に地元の一メンバーとして参加しているが、行政として低炭素社会目指す取組として何ができるかといったもう一つの顔をもっている。

・去る 10 月 21 日に環境フェア開催した際、当協議会に参加していただいている自動車メーカーに協力いただき、ＥＶ等の展示を行った。しかし、市民にＥＶ等はまだまだ知られていないということが印象に残った。市民に広くＥＶ等のよさを伝えていくことがメンバーとしての第一の役割と考えているまた、行政として取組に関する支援については、WGを進める

中で、皆さんのお力をお借りしながら一緒になって考えたい。

（伊勢市産業観光部　須崎氏）

・加藤先生がおっしゃたように、式年遷宮のある来年度は伊勢に 2,000 万人の方が訪れると予想される。前回の式年遷宮時の 800 万人の倍以上の人数で、尚且つ、車で来られるとなるととんでもない混雑が予想される。

・公共交通機関利用して来て頂く伊勢を推進したく、近鉄、ＪＲ、旅行会社各社とともに検討を進めているところに、今回のモデル事業をという話をいただいた。偶然にも伊勢市駅に市の施設を整備し、宇治山田駅の駐車場を有料化し、その中に案内所を設置した。また、レンタサイクルの実施も検討中である。

・観光部署としては、公共交通機関の利用推進により低炭素社会を目指す形を構築できるチャンスだと思っている。これを機に限られた予算の中で是非ともメーカーとタイアップして、ＥＶ等を走らせていただき、できるだけ多くの方にＥＶ等を PR したい。来年度に何かできればよいと考えている。

（三重県温暖化対策推進課長）

・温暖化対策の取組を県民、事業者の皆さま個々に取組んでいただいてはいるが、面的な取組が弱いと感じている。それを広げていくために、まちづくりはよいコンセプトであるという考えがある。三重県では「協創」という考えに基づき、「観光をテーマにＥＶ等を活用したまちづくり」として事業提案を募集し、提案を頂いた伊勢市をモデルに選定した経緯である。

・ワーキングを進める中でメンバーの方々の熱い思いを感じ取っている。県は前面に出すぎずこの取組を来年度も進めていくために、現在、予算要求を行っているところである。

（朴会長）

・伊勢市地球温暖化防止実行計画に関わった者として補足させていただきたい。私たち環境審議会は、実行計画の中で 2020 年までに CO2 を 30%削減（2007 年比）するという大きな目標を立てた。ほとんどの市町では地域の住民、事業者、行政の三位一体が取組主体となると思うが、伊勢市の場合は観光客が非常に多いことから、主体に来訪者も入れた。

・伊勢市は日本全体の平均に比べると公共交通機関インフラが発達していないことから、民生部門と運輸部門の CO2 排出量が多い。そこをなんとかしないと 30%削減に到達しない。インフラが整備されてないのに CO2 だけ減らそうといっても不可能である。何か代わるものがないか？と探っていたところに、県からＥＶ等を活用した低炭素社会モデル事業の話があった。この取組でどのくらいの効果があがったかを評価できればよいということからモデル地区として手を上げた経緯があった。そんなバックグラウンドを持った協議会なので、どうかお知恵を貸していただければと思う。

（西片氏）

・どうもありがとうございます。各所からご説明いただいたことで、やっとすっきりした思い

である。伊勢市で CO2 を 30%減らすという目標値があり、ＥＶ等活用した低炭素社会創造協議会を立ち上げ、その中で環境と観光という面から来訪者をターゲットにしてというのが分かってないと各ＷＧでも議論が進みにくいと思う。協議会設立のバックグラウンドや協議会で決まったことを文章に残していただいた方がやりやすいのではないか。

・先程、加藤先生から 1 年とか 10 年とかのタームでやるというお話が出たが、2020 年までの取組の中でその一要素としてこの活動が組み込まれているという理解である。この協議会自体どのくらいのタームで実施するのか。時間軸で決まっていることがあれば教えていただきたい。

（三重県温暖化対策推進課長）

・県の事業としては、選択・集中プログラムとして本協議会の運営を 4 年間の事業ということで考えている。皆様の協議会で取り組まれることについては 4 年で完結するものでは無いと考えている。取組の状況次第で県の携わり方は、変化するものと考えている。

（朴会長）

・今回、当協議会設立のバックグラウンドの話が出来てよかったと思う。これらを早いうちに資料等にまとめて、皆で参考にしながら議論が進められればよい。何故これをやっているのか、何を目指していのかなど、大まかな方向性はある程度理解できているだろう。

・各ＷＧからはまだ発表できないこともあるだろうが、更なる提案があればお願いしたい。また質問もお願いしたい。

（三菱自動車工業株式会社 橋本氏）

・弊社は他地域で同様の取り組みを行っているので、参考のために 2 点紹介する。

・ア）観光ＷＧの資料にあるように「宿泊施設でＥＶシェア可能」と提案されている。弊社では、JTB さんと共同で栃木県那須の旅館に各 2 台ずつＥＶを置かせていただき、宿泊客の方にご使用いただいている。似たパターンであればご協力できるかと思う。

・ウ）災害ＷＧからの報告で、災害が起こったときどうやって車を調達するかという話があった。日産自動車さんも実施されているが、私どもは京都府、京都市と防災協定を締結している。有事の際には、弊社の車、販売会社の車、関係サプライヤーさんの車を提供するというものである。京都には自社工場とＥＶ関係サプライヤーさんがいることから、まとまった台数の車が準備できる。車の調達はできない話ではない。

（トヨタ自動車株式会社　河合氏）

・この事業は、地元が主役で、各ＷＧはそれぞれキーワードのもと自由に議論を進めている。

・私は、ウ）災害ＷＧに参加しているが、実際に災害が起きたときのことを考えると、低炭素の議論よりも、いかにして暖をとるか、その時は CO2 が増えたとしても暖かい方がよいという議論の方が優先されるだろう。そういう議論からすると、デザインの議論では神都や心都やおもてなし、おかげさま Action などと言っており、低炭素はどこへ？というのが西片

氏の最初の疑問だったと思う。

・カテゴライズされたものを一旦集約すると、当初の 30%削減の議論からは確かに距離がある。今後の進め方として、30%削減から違うから外そうよという話になるのかどうか、軌道修正するかどうかを確認したい。

（朴会長）

・30%削減はあらゆることに関わる。誰がどのくらいイニシアチブをとっていくかはこれから皆で考えていく必要がある。

・式年遷宮や EV 車等活用による低炭素社会実現等のプロジェクトが先行していく中で、30%削減をどうするかは節目、節目で議論する必要がある。30%削減は１年では到底無理な話である。

・式年遷宮という「観光」の部分と「環境」である電気自動車等とどういうふうにマッチングしていくのか。EV 車等活用による低炭素社会実現等といった一つのプロジェクトを一年間進める中、どういう側面で考えられるかをここでは採り上げている。即座に 30%削減に結びつけるというものではない。

（河合氏）

・それでよいと思っている。５つのＷＧの議論がそれぞれ別々に進んでいるが、今までやってきたことが今回の日産さんの議論で否定されたわけではないですよねという確認である。

（朴会長）

・全く否定されてない。各ＷＧが個々にやってきたことが収斂されて共通項を見出すことは、それぞれの各論に入っていただかないと実現できないにせよ、低炭素社会へのよい道筋をつくっていただいたと思っている。ある程度軌道修正は必要かもしれないが、抜本的見直しが必要になるほど方向性が間違っているわけではない。

（株式会社 JTB 中部　後藤氏）

・先程、オ）デザインＷＧで議論されたコンセプト「おかげさま Action！」についてご指摘いただいた。これは弊社の案なので説明させていただく。

・30%削減や低炭素社会の実現は、事業としてとらえるとゴールであるが、土地の人からすれば、神に抱かれた伊勢で、未来永劫、いかに住みよく平和に暮らしていくかの一つの手段が低炭素社会の実現であり、その具体的な目標が 30%削減である。そういったコンセプトに則った中で、結局、ＥＶ等は一つの手段なのである。

・住むひとも来たひとも幸せをつかみましょうというコンセプトのもと、おもてなしや防災、災害や観光や駅周辺などそれぞれに「心」としてもっておくべきものと実際に具現化していく「もの」（＝プログラムや観光コースの考案や車の配備）がある。その「もの」に対してデザインするものがあったり、あるいは、「心都」はまちそのもののデザイン、一つの考え方、キャッチフレーズとしてあてはまると考えている。

・当初、デザインWGでも、車のロゴやマークをどうするかという議論に走りがちだったが、そうではないだろうという話になり、大きな視点で考えて立ち返ってまとめたのがこのポンチ絵である。
・例えば、観光プログラムをつくるのであればそれをＰＲしていくデザインが、あるいは、車を配備するのであればそれにマッチするデザインがあるのではないか。つまり、手法として公募をかけて取捨選択した上で、各論に落としていけばよいのではということである。
・全体を一気に実現して欲しいということではなく、まずはこういう考え方があり、あとはそれぞれのWGの中で考えてもらえたらという思いをこめた資料である。ここがゴールではない。誤解を招いたのかもしれないので説明させていただいた。

（伊勢市　松下副市長）
・伊勢市は神宮御鎮座 2000 年のまちで、伊勢市というとすぐに神宮と結び付けられる。しかし、行政の場合は政教分離原則があるので、これまで様々な工夫をしてきた。例えば、遷宮にあたっては、市は直接タッチせず、商工会議所で遷宮対策委員会をつくってもらい、会長は伊勢市長であるが委員長は商工会議所会頭ということで役割分担をしている。神事と行事はうまく分けている。
・デザインWGで議論されている、伊勢を表す言葉：「神都」が政教分離に該当するかどうかについては、現在調査中である。憲法違反で訴えられることもあるため、後ろ向きな話で申し訳ないが、この点はご配慮いただきたい。

（菊川副会長）
・30%削減は大きな挑戦だと思う。その実現を妨げているものは何かについて、各WGで是非ご議論いただきたい。
・観光がないと生活ができないわけではない。観光の供給側はビジネス行為の一つでもあるし、受ける側は利便性を求める。例えば、ピーク時間に宇治山田駅で低炭素仕様の観光バスが待ち構えているというモデルをつくる絶好の機会と思う。ピークを分散していくためには、観光と生活をいかに分離して、いかに便利に使っていただくかを考えればよいのではないか。
・一番難しいのは、各事業者は電気を勝手に販売できないことである。規制緩和を進めるためにも、イニシアチブをとって進めるのは会議の一つの目的になるのではないか。
・ビジネスにつながることが生活を向上させるということを是非お考えいただきたい。

（朴会長）
・松下副市長から大変重要な意見をいただいた。伊勢の環境、まちづくりに関わる会議には必ず神宮の方が参加される。その方々がいつも話しているのは、「伊勢神宮」というのは世の中になく、「伊勢の神宮」があるのだということである。
・神と日々の生活とは違う。「神の都」「神の道」などキャッチフレーズ的な言葉は使用できないのではないかと思っている。再度慎重に確認させていただくが、例えば WG で「神の某」などが決まったとしても、別の表現になる可能性は極めて高いということをご理解いただい

た上で議論を進めていただきたい。

（豊田通商株式会社　浅井氏）

・我々は商社なので、事業を続ける中で採算性が気になる。この事業では、自動車メーカー及び充電器メーカーが最初のイニシャルに協力するのではないか。４年以上かかるとなると、なんらかの援助がないと難しいと思う。先程三重県から予算の話が出たが、もし準備いただけるものが明確であれば教えていただきたい。

（事務局　三重県）

・予算については、単年度で考えていくものなので、長期的なことは明言できない。県としては、伊勢で成功事例をつくって他市に展開したい。ただ、ずっと伊勢に予算をつぎこみ続けることはできない。当初については、国の事業などで予算を確保してこの取組を支援していきたい。

（浅井氏）

・事業に参加するメーカーとしては、事業の中で採算がとれるようなことを前提に考えるべきということか。

（事務局　三重県）

・持続、継続できるような取組を考えていただきたい。我々も経験等がないので、初期の段階では協議会の取組を出来るだけバックアップしていきたい。

（本田技研工業株式会社　小木氏）

・電気は低炭素といわれているが、原発問題を考えると、クリーンエネルギーと言い切れるか懸念する。
・オ）デザインＷＧから、太陽の神が地元にあるから太陽光でという素晴らしい提案が出てきた。その方向で考えることには賛成である。三重県には太陽光パネルを製造している事業所（京セラ）があるので、その事業所とタイアップして進めれば良い企画になるのはないか。ただ太陽光パネルはまだコストがかかるので、相当の覚悟が必要だと感じている。

（おはらい町会議会長　前田氏）

・伊勢市民としてこの取組をどう進めていくか考えているが、非常にもやもやしている。
・私は伊勢市の環境課からこの話をいただいたが、観光セクションからは何も聞いていない。
・伊勢市の低炭素化の取組として 30%削減という目標を掲げたことはとても大事である。しかし、市民の意識がない中で来訪者に電気自動車で来て下さいとお願いするなんてとんでもない話である。市民の意識レベルを上げてはじめて、観光都市の伊勢があり、観光者を迎えることが出来るのだと思う。
・オ）デザインＷＧの資料４ページのポンチ絵で、「おかげさま Action！」をご説明いただいた。「住むひとも来たひともアクションに参加でき」はキーワードで、これから進めるプラ

ンを市民が理解し、利用し、来訪者には喜んでもらい、市民が来訪者に対して「伊勢市の空気を汚さずに来てくれてありがとう」という気持ちをもてることが「はじまりのまち伊勢」であり、「生成りのまち伊勢」である。

・遷宮の年である来年、観光客がピークになるという、よいタイミングでいただいた事業だと思っている。このチャンスを是非活かしたい。企業の皆様からは是非ともお知恵をお貸しいただきたい。

・「神都」という言葉は、合併時のキャッチフレーズ「神都風吹く」・・・として使用した気がしている。確認をお願いしたい。

（朴会長）

・ＷＧも、これまでは手探り状態だったのではないか。それぞれのテーマを議論し、そこで新たな課題が出たという話もあった。困った時に立ち止まって考えられるような大まかなコンセンサスも今はない。

・オ）デザインWGの資料の４ページのポンチ絵は、このまま進むのではなく、短期的には、ＥＶ車等の充電スタンドをどうするのかを考えるべきと思っている。伊勢の町全体を見据え、一つの物差しとしてのデザインを考える場合、完璧ではないし課題もある。

・しかし、今日の議論を踏まえて考えても、まち全体で未来に向かって進めていく、その中で予算は今のところ大丈夫そうだということを考えると、まんざらこのポンチ絵も来年のものだけとは思えない。

・人に一番訴えやすいものはデザインである。（狭義のデザインではあるが）皆に愛されて、分かりやすくて、地域の景観や文化にとけこんで、他所から来た人もすぐに分かるようなデザインが必然的に出てくるだろう。

・今日の協議会で４ページのポンチ絵はいろんな意味で考えさせられた。そのことを、次のＷＧでメンバーに伝えていただき、どんなデザインにもっていくのかということを是非とも議論していただければと思う。

・エ）充電ＷＧは、とにかく車を動かすにはガソリンに代わる充電スタンドが必要ということになる。第３回ＷＧは、市内のメンバーだけで開催するということであるが、それには何か特別な理由があるのか。

（エ）充電WG代表　中村氏）

・前回のＷＧで、メーカー各社からは今あるものは全部出したので、今度は市内でどうするかを考えて欲しいと言われた。それでは市内メンバーのみ集まろうということになった。

（朴会長）

・問題がなければよい。

・イ）おもてなしＷＧについて。「おもてなし」の意味を考えたら、同じおもてなしでもいろいろあると思った。お茶や伊勢米を使用したおむすび、あるいは特産品であるお餅を提供するなど様々であるが、そういった気持ちはありがたいが、例えば、食べ物をつくる時には衛

生面を考える必要がある。地元の力がなければ進められない。その部分をもう少し具体的に議論して欲しい。

・身体が不自由な方に対してのユニバーサル的な部分、例えば、車椅子や杖を用意するなどのおもてなしも考えられる。そういった幅広い議論は出なかったのか。

（イ）おもてなし WG　代表代理　柴原氏）

・身体が不自由な方に対しての議論は出ていないが、「おもてなし」の意味は何かという話は出た。第３回ＷＧで「おもてなしとは、今できることをできる人が精一杯観光客に対して尽くすこと」と定義した。これは、まさに迎える側である市民がやることである。

・地元産のお茶やお米の提供を通じて、地産地消、自給自足などの環境面をアピールすることは可能であるという議論で前回の議論は集約した。

・今、ご提案いただいた障害者の方へのおもてなしについては、持ち帰り次回の議論の中で提案したい。

（朴会長）

・ユニバーサルデザインという言葉が適しているかどうか分からないが、そういう方面での議論も加えていただくと、皆におもてなしができることになるのではないか。専門家に意見を聞くなど、どうかよろしくお願いしたい。

・ウ）災害ＷＧについて。宿泊客が集まる二見と昼間に参拝・買い物客でにぎわうおはらい町はそれぞれに課題・対策が異なるということである。災害発生時、逃げる時に使うＥＶではなく、命が助かったときの数日間にどうＥＶが役に立つかという議論が重要になるだろう。災害は実際には起きて欲しくはないが、伊勢ならではのよい提案が引き続きあればよい。

・ウ）災害ＷＧの今後の議論の見通しは？

（ウ）災害 WG 代表代理　柴原氏）

・災害 WG は粛々と進めるしかない。協議会の目的が低炭素社会であるというところを、少しだけ難しくさせたのが災害ＷＧの存在だと思う。防災は低炭素にはつながらない。ＥＶ導入で災害時対策になるというストーリでしかない。

（朴会長）

・命あってこその低炭素である。厳しいＷＧではある。二酸化炭素がどうというより、いざとなったときにＥＶが命を助けるツールとして有効活用できるということは十分価値のある話。むしろその辺に柴原さんの力を発揮していただけると大変ありがたい。

（西方氏）

・災害ＷＧの議論は、普段のピークカット、ピークシフトなどのエネルギーマネジメントに重要に関わってくる。災害時だけにＥＶが活躍するわけではない。まさに低炭素に関わる。

・当社は災害ＷＧのメンバーに入っていないが、非常に重要なグループだと思っている。

（柴原氏）

・まとめていただきありがとうございます。もちろんピークカットの話など、既に伺っているので、それはウ）災害WGなのかという話になる。もちろん重要なWGとして今後とも議論していきたい。

（朴会長）

・観光WGも大変重要である。加藤先生ならおそらく 10 年スパンでよい提案をしていただけると思っている。

・今日の議論踏まえて、是非とも各WGの議論を活発に進めていただきたい。

４．その他

（事務局）

・協議会はあと２回、第３回と第４回の開催を予定している。最終的には行動計画を第４回で確定する予定であるが、第３回協議会ではこれまでのWGの議論を踏まえて事務局から行動計画案をまとめ提案させていただきたいと考えている。

・開催時期は１月から２月を想定しているが、調整させていただく。よろしくお願いいたします。

（朴会長）

・５つのWGはしばらく大変であるが、よいものを作っていきたいので、是非ともよろしくお願いしたい。

・最後に、質問や意見、協議会に対する要請、希望があれば受け付ける。

（意見なし）

・事務局はいつでもオープンしているので、何か意見等があれば事務局までよろしくお願いする。

５．閉会

（朴会長）

・では、これをもって、第２回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以上